令和8年度

岐阜大学シンポジウム

～生体分子の相分離研究の最前線～

高齢化社会において認知症などの神経変性疾患や癌が増加傾向にあり、タンパク質分子が異常に絡まり合う「異常凝集」がその主な原因となっています。タンパク質は液–液相分離により「液滴」と呼ばれる分子集合状態を形成し、異常凝集体へと転移することが明らかになっています。細胞内においては液滴状態は高効率な化学反応を可能にしますが、一方で、タンパク質同士が絡まり合い凝集してしまいます。本シンポジウムでは、『生体分子の相分離；液滴と異常凝集』に焦点を当てた研究を紹介します。

令和8年
12月7日（月）13：10 - 15：00

会場：岐阜大学
工学部講義棟12番教室
＊参加無料

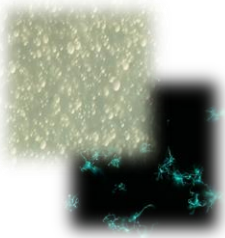
シンポジウムプログラム

13:10-14:00
『生体分子の相分離と階層的な秩序構造』
菅井 祥加（東京科学大学総合研究院　特任助教）

14:10-15:00
『相分離液滴内で起こる病的凝集の分子イベント』
茶谷 絵理（神戸大学大学院理学研究科化学専攻　教授）

お問合せ先

kamagata.kiyoto.p7@f.gifu-u.ac.jp
（岐阜大学工学部　鎌形）



主催　岐阜大学